

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	教育学部、英語教育コース
学年(出発時)	4年
大学名	University of Central Lancashire
国	イギリス
留学期間	2023年9月～2024年5月(8か月10日)
派遣先での身分	交換留学生

一日の生活スケジュール(通学時)		
	毎週月曜日と水曜日	毎週木曜日
8:00		
9:00	授業	授業
10:00	授業	授業
11:00	友達と過ごす	授業
12:00	昼食	昼食
13:00	友達と過ごす	授業
14:00	友達と過ごす	授業
15:00	友達と過ごす	授業
16:00	友達と過ごす	友達と過ごす
17:00	友達と過ごす	友達と過ごす
18:00	友達と過ごす	友達と過ごす
19:00	夕食	夕食
20:00	友達と飲み会や映画鑑賞	友達と飲み会や映画鑑賞
21:00		
22:00		
23:00		
0:00		

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Introduciton to Education Studies	2時間/2コマ	20	英語	2000 words essay, 2500 words
Sociology & Education	3時間/1コマ	20	英語	group presentation, 3000 words
Sociological Ways of Thinkings	3時間/1コマ	20	英語	2000 words essay, 2000 words essay
Education for Everyone?	2時間/2コマ	20	英語	group presentation, 2500 words
History of English	3時間/1コマ	20	英語	2000 words essay, 2000 words essay
Learners with SEND	3時間/1コマ	20	英語	2000 words essay ,making a poster

大学のサポート	
チューターの有無	無し
チューターのサポート内容	無し
語学コースの有無	Free English lesson(参加自由)
コース名、料金、期間等	School of Humanities, Languages and Global Studies – Humanities Exchange Programme / 三重大学の学費 / 10/1 ~ 5/3 (Full Year)

生活	
住居のタイプ	student accommodation
住居の名前	Ribble Hall
部屋タイプ	個室
ルームメイト(国籍)	All British (5 room mates apart from me)
室内設備	机、いす、ベッド、洗面所、タンス
共用施設	キッチン、トイレ、シャワー
インターネット設備	無料wifi(大学のwifiを掴む)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	徒歩5~10分
アルバイトの有無	無し
アルバイトの内容	

渡航	
Visaの種類	Student VISA (originally Tier 4 VISA)
Visa申請先	大阪
Visa取得にかかった日数	1.5か月～2か月(VISA申請センターの忙しさによる)
Visa取得にかかった費用	10万円
Visa取得方法、提出書類等	大学から受け入れ申請が出て、正式な受け入れ許可証(CAS Visa Letter)が届き次第、大阪or東京にあるVISA申請をするための予約を行い、実際に大阪or東京のVISAセンターに行き、1か月後くらいに結果が届く。
留学先大学の最寄り空港までの経路	電車で1時間(Manchester Airport)
渡航費用	約28万円
ピックアップサービスの有無	あり(前期に行くとManchester Airportまで迎えのバスが来ます)

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	1年留年(卒業遅れ)
有る場合、その理由	おおよそ1年間留学していたため
就職活動開始時期	2024年6月
帰国後の進路	中学校英語教師になる

留学にかかった費用	
現地通貨=日本円(約)	1㌦ 180～200円
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	約11万円
学費(教科書代や語学コース授業料等)	0円(三重大学の学費が適応される)
宿舎費(月額)	約320㌦(留学前に通年まとめて支払い)
光熱費(月額)	宿舎費に含まれる
食費(月額)	4～5万円
その他	4～5万円飲み会やManchesterやLiverpoolへの日帰り旅
留学期間中にかかった費用の合計	約250万

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

本文章では、学部授業、サークル(Society)、日々の生活、旅行、その他について述べる。必ず学部授業においては、私は三重大学から初めてとなる通年での正規授業の受講となった。自身が教育学部英語教育コースであることから、教育学と英語学をメインとして授業のタイムスケジュールを組んだ。交換留学生で正規授業を受ける人は、自身でタイムスケジュールを組む必要があり、また教授や大学からOKをもらえない限り取れない授業もあるため、確認等が必要になる。授業の選択に際し、もちろん自身の興味がある分野が望ましい。何故なら、三重大学からの交換留学生の場合、成績はあまり関係ないが、高いことに越したことは無いためである。実際に英語学に関する前知識はあったものの、現地での授業・学生とのグループディスカッションの際に大変苦労し、私がグループディスカッションあまり発言できない、もしくは的外れなことを言ったが故に、その授業後以降のグループディスカッションで自分と話してくれなくなることが実際にあった。しかし先生が大変優しく思いやりのある方であったため、二度のエッセイ作成に関してたくさんのアドバイス・修正を頂くことができた。教育学に関しては、少し複雑であるが、日本と海外の教育問題には大きな違いがある。日本では教え方・不登校・いじめ等具体的な問題・場面であるが、海外における教育上の問題はgender, disabilities, ethnicity, social classにおける教育の平等・機会均等である。この問題を解決するために心理学や社会学・その他の学問と組み合わせながら考える、という非常に興味深いものであった。教育学のように、海外の大学ではcourseの多様性が大きかったり、自分が学ぼうとしていたこととcourseの内容が異なることがある。が逆に、ここが海外で授業を学ぶ興味深い点であるともいえよう。例えば、私がWalesで会ったBangor Universityの2人の友達はzoologyを学んでいると聞き、学問の多様性を感じた。まとめると正規授業の受講の際には、自身に興味・関心あるいは先行知識のある分野の授業またはチャレンジ精神があれば全く異なる聞いたこともないような学問の授業を受けてみると、英語面以外での学びがあると考えられる。

University of Central Lancashireには、サークルのようなSocietyが存在し、Japanese Society, Korean Society等挙げるときりがないほどだ。多くの日本人学生が最初Japanese Societyが主催するイベント(pubでお酒を飲んだり、bingo大会)で友達を作る。私自身もJapanese societyで友達を作ったため、Societyには少しでも興味があれば、積極的に参加することをお勧めする。ここで培われるコミュニケーション能力や積極性はその後の留学生活を楽しく送るためのキーとなる。

日々の生活は人によりまちまちである。例えばエンジニアリングや薬学を学ぶ生徒は1年生であっても常に忙しそうで、ジムと図書館、家、大学を往復している学生もいた。地方(LiverpoolやManchester)から通う生徒も少なくはない。たくさんのSocietyに顔を出す人もいれば、最初の方に固定メンツを作り、授業が終わった後に誰かの家に集まる人もいると考えられる(私は最後に当てはまる)。大切なことは自分がどうしたいのかその場で決め、行動に移すことである。交換留学生であり成績がさほど重要でないからこそ、多くの選択肢があり、その中で常に考えながら行動に移す姿勢が非常に重要であり、私は固定メンツとほぼ毎日会い(友達の帰省やクリスマスなどのイベントの時期を除く)、英語のスピーキング能力を高めながら、考えてすぐ行動に移す姿勢を学んだ。

旅行については、多くの日本からの交換留学生が一人や他の留学生とフランスやスペインといったヨーロッパの国々に行っていたが、私はスペインの一か国しか行っていない。理由は友達との時間を優先したかったためである。日本で大学生をしていれば気づくが、現地大学生の多くはお金がない。そのため友達と多くのヨーロッパの国々を回るのは不可能に近い。もちろんWalesやScotlandのようなUKから非常に近い国々には旅行に行きやすいが、他のヨーロッパへの旅行はコストがそれ相応にかかる。ただ一人ヨーロッパ旅をしたものは、他人より多様な価値観・困難を乗り越える力が付くことは間違いないと言える。最後に私は留学中多くの友達を作るべきか1つのコミュニティに居続けるべきか、非常に悩んだ。今の時代インスタグラムのストーリー機能などを通じて、友だちの留学生活が充実しているように見え、自信を失うことがある。ただ私は最初に会った友達が面白く、「ここに決めた」といった意思を持って、11・12月ごろからたくさんたくさん会うようになり、たくさん会って話すうちに、英語での冗談の言い方が分かるようになり、友だちの口癖を真似し、友だちに「そんな言葉どこで学んだん?」といった笑いが生まれる場面もあった。留学をする際には、是非毎日でも毎週でもいいので、小さな目標を立てたり、自身に向き合う時間を大切にして欲しい。これができると留学生活がより良くなると考えられる。

今後留学する人へのアドバイス

留学したからこそわかるとしても大事なアドバイスを書き留める。

①目は、単語力は伸びない。例えば相手の言っている単語の意味が分からなくてWhat do you mean?と聞いて、相手が丁寧に教えてくれてもすぐに忘れてしまう。次のような現象も起こる。例えばabolishとdo away withはどちらも「廃止する」という意味であるが、do away withというフレーズを知らない毎回「廃止する」と伝えたい時はabolishが使えるのである。つまり積極的に課題に力を入れて取り組むような状況を除いて、単語力は留学に行っても伸ばすことは難しい。

②目、カラオケの英語の持ち曲は1個あった方が良い。University of Central Lancashireのある都市はStudent townです。つまり、あまりすることがない。そしてpubなどでもカラオケは非常に有名である。そんな時に英語の曲を一曲も歌えないと、恥ずかしくなったり、「自分の番が回ってきたらどうしよう。」と不安になる。一曲だけでも歌えると素晴らしい、自信に繋がる。

③目、カメラを持っていくこと。日本でも起こり得るが、スマートフォンでカメラ・動画を取ろうとすると、身構えて顔を隠したり、止めるようにいう子は多く存在する(私の経験上、特に女性)。だがカメラを向けると、誰でも写真・やビデオを受け入れ、海外にいる人だとカメラに向けて面白いことをやってくれることが多い。思い出作りのためにも是非カメラの持参を勧める。

報告書記入日

2024年6月10日